



平成 24 年 7 月 7 日
第 233 号
清野新聞社

南島めぐり(修)

北国育ちの人間には何度行っても南の島に対するあこがれのようなものがあります。泡盛や黒糖酒を飲みながら、はるか昔に我が祖先様はこの海を渡って大八洲にやってきたのではないかと想像するだけでも楽しいものです。

今年も、四月から六月にかけて奄美大島、徳之島、宮古島と出張ではありましたが、その合間にあれこれと様々な島の人に出会い自然を体験してきました。

奄美大島では出だしから大変な経験をしました。

一日一便だけです。が東京から直行便があり、かなり大型の飛行機が就航しています。着陸態勢に入り滑走路の途中まで来たところで強烈な横風を受けて急上昇しました。しばらくして再度挑戦しましたが機体が傾い



豪華客船ガンダム

ば皆が感謝の気持ちを表現してくれるのにも思いました。奄美大島では、ニュースでオランダ船籍の豪華客船が入港し歓迎風景が報道されていました。さっそく翌日の昼食時に近くまで見に行きました。まるで大きなビルかホテルが海に浮かんでいるようでした。総トン数が六

可能なら羽田空港に引き返すとのこと。

そして数十分後、機内が静まりかえり皆が固唾を飲む中で滑走路に近づきます。今度はやや強い振動がありました。なんと着陸できたようで、減速が始まると万来の拍手が起きました。この程度のことはアフリカや南米へ出張しローカル線では日常茶飯事のことでしたが、日本では初めての経験でした。アフリカでは降口に機長が出てきて英雄扱いとなり乗客と握手やハグで大騒ぎになるところですが、やはり日本人は控えてアナウンスだけでした。せめて、出てきて顔くらい見せれば皆が感謝の気持ちを表現してくれ



名前は「徳之島子宝空港」



泉重千代像

徳之島では、六月としては珍しく台風四号、五号の影響で欠航が相つぎましたが、急遽鹿児島からの便を変更してなんとか移動できました。こちらでも仕事の合間にレンタカーで島内一周してみました。昨年目立っていた米軍基地移設反対の看板は少なくなっていました。

万数千トンとのこと。北海道便のフェリーが一万五千トン前後、有名なタイタニック号でも四万六千トンですからその大きさが想定されます。

よくも人間はこんなにも大きな動くものを造ったものだと感じしましたが、ぶつかるかもしれない代物なので原発事故以上に間違えがあつたらどうするのだろうかとも感じました。

奄美大島では帰途の飛行機がまた欠航で足止めのおまけ付きでした。島の人は慣れてる模様で「今日はだめだね」と帰っていきいます。我々も仕事が終わる翌日は土曜日だったので島内に一泊し翌日午後の東京直行便で帰ることにしました。翌日は快晴でせっかくの機会と島西部の瀬戸内町へドライブしました。日本一のマグロ養殖場やフーテンの寅さんのロケ地などを見てきました。



宮古島前浜ビーチ

世界一高齢者だった泉重千代さんにあやかりたいと伊仙町へ行ってみました。記念碑と銅像はありましたが、観光化もされず何の変哲もない農地の中の一軒家でした。徳之島は長寿だけでなく出生率も全国一で空港名は「徳之島子宝空港」となっていました。週末にトリアスロンの大会があるとのこと。トウキビ畑の農道を多くの人々が練習で走っていました。そんな健康そうな人達を気にもせず毎晩黒糖

あるとのこと。トウキビ畑の農道を多くの人々が練習で走っていました。そんな健康そうな人達を気にもせず毎晩黒糖

酒を飲みに出かけました。その反省もあり、奄美諸島ではヤギが自然繁殖して食害として海岸線の土壌侵食を招き問題となっていてのことでしたので、早速生態系保全と地域貢献のためにも名物のヤギ汁を食べに行こうということになりました。

人づてに聞いた名物「お姑あのお店」へ行ってみました。ところが開店が夜の10時から朝の四時までと張り紙がしてあります。しかたなく近くの店で黒糖酒を飲みながら待つことにしました。開店した時にはすっかり飲みすぎて出ま上がってしまいました。ヤギ汁は噂通り臭いがなかなかの珍味でした。

ところで、「お姑あ」に何故こんなに夜遅いのかと聞いたところ、「昔からこの島は夜が遅く、常連ばかりだからこれでいいのさ」とのこと。翌日(当日)の仕事もあるので二

時頃に引き上げました。が、結局我々以外は誰もきませんでした。こんな時間から来る不心得ものが本当にいるのだろうか



地下ダム

ここで農業用の地下ダムを視察しました。石灰岩の空隙に水を貯めるもので用地買収が不要、環境に影響なし、蒸発による塩類集積もなしと独自に開発された技術です。地下ダムなので見えないのですが、越流水はまさしく地下水できれいでした。オホーツクの群青の海を見てきたので、島南西部の前浜海岸の白さは不思議といつていいほどの絶景でした。珊瑚の砂が白

と、あまり変わらない我が身を忘れて考えました。

「お姑あ」は宮崎の出身で旦那を追って島まで来た情熱の女。その旦那も一〇年前に亡くなったが、今はひとり頑張っている。八〇歳をとうに過ぎているはずだが実に元気で愉快なお姑あでした。

新聞は一日遅れ、強風のために船が入れずスーパーから牛乳が消えましたが、のどかな島でした。

宮古島でも夕食は地元の食材と泡盛を探して飲みに出かけました。

三線の流しのお姉ちゃんがやってきたが無料だという。新橋あたりでは信じられない話です。沖縄本島や石垣島のようにあまり観光化されておらず、皆さん素朴な人ばかりでした。

沖縄真栄田岬



く海底まで光が届くことによるとの説明がありました。沖繩本島、石垣、西表などと比べても格段の白い砂浜は絵の具でもなければ描けないほどの景色です。

宮古島の帰途、週末となったので朱音がインスタクターをしていける沖縄本島の恩納村マリビューパレスに立ち寄りしました。朱音の図らいで「青の洞窟」をダイビングしました。洞窟奥から潜って振り返った景色が実に神秘的で素晴らしいものでした。これ

万座ビーチ



もサンゴの白い砂浜が光を反射し、奥まで届くことによるとのこと。外海でもあり時には大型の魚を含めて餌付けもできて感動しました。

昼寝をしたあとにホテルの最上階のレストランで夕日を眺めながらのオリオンビールも美味しかった。なんと中ジョッキが二百円ポッキリでした。夕食は朱音と一緒に店長おすすめのお店へ行き、泡盛のボトルを空けてしまいました。

翌日は近くの万座ビーチを散策しました。これまた岸壁と珊瑚礁の景観が素晴らしい。

駐車場脇の露天のカリユシを物色するとなんとホテルの半額三千元、後ろから「お姑あ」が「二枚でどう、ワンピースもつけて同じでイイサ」とのこと、即座に買ったさらさらシーサー置物のおまけ付き、「お姑あ」は商売上手さ、それでもユニクロよりまだ安いさ



青の洞窟

